

45 トルコギキョウ青かび根腐病の発生条件と防除対策

福島県農業試験場病理昆虫部・平成12年度農業試験場試験成績概要

- 1 部門名 花き—トルコギキョウ—病虫害防除 分類コード 05—19—23000000
- 2 担当者 平子喜一・今泉光代
- 3 要 旨

トルコギキョウ青かび根腐病は、1997年に本県で初発生を確認した*penicillium* sp.による土壌病害である。本病対策の資料にするため、以下の検討を行った。

(1) 施肥量の違いによる発病の差異

施肥量を2倍量、3倍量と、多肥とするに従って本病による根の褐変が多くなり、根重、切り花重及び草丈は減少した。このことから、過剰な施肥は本病の発生を助長し、株の生育を阻害する事が分かった。

(2) 前年度の土壌消毒効果の次年度への影響

菌密度が高い圃場を使用し、土壌消毒剤の効果を検討した結果、クロルピクリンテープ剤A(有効成分99.5%)、クロルピクリンテープ剤B(有効成分55.0%)及びダゾメット微粒剤による防除価は98以上と非常に効果が高かった。次年度、同一圃場にトルコギキョウを栽培したところ、クロルピクリンテープ剤A区は防除価68、クロルピクリンテープ剤B区は防除価74、ダゾメット微粒剤区は防除価54に低下した。このことから、菌密度が高い圃場では、次年度になると防除価がかなり低下してしまうため、翌年の土壌消毒も必要と考えられた。

(3) 太陽熱を利用した土壌消毒

太陽熱消毒は、湛水状態にただけではあまり効果が無かったが、稲わらと石灰窒素を加えることにより、高い防除効果が認められた。したがって、太陽熱消毒は本病害の防除法として有効であり、太陽熱消毒を行う場合は、稲わらと石灰窒素を加えることが望ましいと思われた。

4 主な参考文献・資料

- (1)日植病報.64(6):611 (2)北日本病虫研報第52号